

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'98
9

月号【1日発行】

かわさき市民アカデミー学園祭
9月11日から



いまを話す

地方分権
来年にも

川崎市議会議員 原 修一さん
国と地方の主従関係を解消し
住民要求、身近な行政で処理

- はりきつてます グループ紹介
草花の芳香を探求する

ハーブの会 (多摩区)

障害者の着やすい服を作る
ボランティアサークル系の詩 (多摩区)

3

8
- 学習・文化情報
TOEIC対策セミナー
曾根麻矢子チェンバロコンサート
村相広義展
◆ 会員募集/読者の声/ミニニュース
□ 退職準備講座の受講者募集/編集後記

10

11

12

13

14

15
- ◆ かわさき市民アカデミー学園祭

裏表紙
- ◇ 表紙絵……緑ヶ丘霊園 (高津区) のザクロ

清水幹子さん

(小誌は再生紙を使用しています)

工藤直ガラス展

Glass NAO '98

☆9月11日(金)～23日(祝) 11:00～19:00

(会期中無休 最終日 17:00まで)

☆グラスギャラリー・カラニス (地下鉄表参道駅下車)

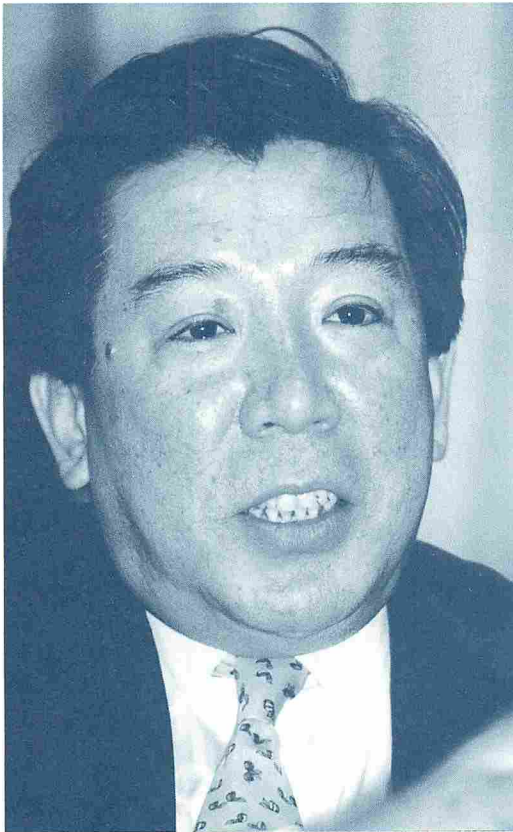
東京都港区南青山5-3-10 FROM 1st 2F

☎03-3406-1440

都市に生きる人間への希望と動植物に託す自然再生をテーマに「工藤直ガラス展」が上記の日程で開かれます。色の重なりが生み出す幻想的な光の世界をお楽しみください。工藤さんは小誌6月号「いまを話す」ゲストで、東京ガラス工芸研究所講師です



「街」



いまを話す

川崎市議会議員

原 修一 さん

Vol.67

分権
地方
権確
実施

国と地方の主従関係解消し 住民要求、身近な行政で処理

「住民ニーズが出るもつとも近いところで、政策が決まる地方分権の意義は大きい」。原修一・川崎市議会議員はこう断言する。福祉社会の理念は「揺りかごから墓場まで」の言葉が端的に示す。それを公平・平等に実施するための仕組みが「地方自治」でもある。だが、日本のそれは三割自治が実態。国が地方を指導する主従関係。この中央集権・官僚システムが破綻した。官僚の腐敗はその象徴的出来事。ことし五月、政府は「地方分権推進計画」を閣議決定した。国の権限を地方へ移譲・促進する、近・現代日本の大改革の一つが始まる。それに伴い川崎市の行政・市議会の改革が不可欠。フリーアナの寺本由美子さんが率直に疑問をぶつけた。

私、市議会議員はご年配の方と想像してまいりましたが、親しみやすい雰囲気にとほっとしております。それに、おしゃれで黄色のネクタイがお似合いです。

原さん フイリピンのアキノ前大統領が黄色のハンカチを振って、市民と対話している姿が強く印象に残りまして、それ以来、黄色をイメージカラーにしています。

——実は私、政治に疎いほうなので、今日に備え「行政ってなんだろう」(新藤宗幸著、岩波ジュニア新書)を読みました。本には

「共同生活を営んでいる人々が決めた意思、政治的決定に従いつつ、共同生活のために必要な事業を担う雇われた人たちの集団作業」と記されています。しかし、実際の私たちの生活と行政・市議会のかかわりが見えてきません。まず、そのあたりのことからお話し下さい。

原さん 行政の仕事というのは、生活にかかわるほとんどの事柄が関係しています。高齢者から赤ちゃんまでの福祉や医療、小中学校の教育、それに水道や道路……。ご指摘の「実際の生活とのかかわりが見えてこない」ことについては、市民の方々に政治的関心を高めていただく意味からも大きな課題と考えています。また、市議会についてですが、市議は市民のみなさんから直接選出された市民代表ですから、市民のご意見や考えを行政へ提案したり意見を申し上げ、予算化させ実現させる役割を担っているのです。事業を直接、執行するのは行政ですが、市議会が行政の仕事ぶりをチェックしたり、市民のみなさんから出された請願、陳情を審査し、行政へ意見を述べる仕事も大切です。

——国会は、テレビ中継や新聞

医療福祉教育に直結の地方自治だが 市民の関心はいまいち

インタビューの要望で地方自治の
仕組みを図にする原さん



で目にする機会が多いのですが、

身近なはずの川崎市の議会や行政、市長と市議会との関係などが、はっきりしないのですが。

原さん 国会と地方議会には大きな相違があります。国会では、総理大臣は国会議員が選び、各大臣は総理大臣が任命する「一元制」

なんです。

——私、国会の仕組みを図にしましたのです。地方自治の仕組みも図にしようと思ったのですが、分からず白紙のままです。原さん、書いていただけますか。

原さん (図を書きながら) 地方のほうは、このように市長も市

議も直接市民から選ばれる「二元制」なのです。そこが国とは大きな違いです。どちらの議会も行政から独立しています。しかし、市議会と市長の関係は、対等併存の関係にあるのです。先ほど「二元制」と言いましたが、市議も市長も市民の直接投票で選ばれています。二元代表民主主義の機能を持っているということです。

——国民が直接、総理大臣を選ぶことは出来ませんが、首長・市長は直接選ぶと。ところで、原さんが議長になられて一年。特に力を入れてこられたことは。

原さん 議長就任の所信表明でも申し上げましたが、いよいよ地方分権の時代に入ります。この五月、政府は国と地方自治体の対等・協力関係を構築するため、従来の上・下・主従関係の象徴である機関委任事務制度を廃止して、国の権限を地方に移譲促進する「地方分権推進計画」を閣議決定しました。それに伴い、来年は地方自治法の関係法令が改正されます。いまは地方分権へ移行するための準備をする大事な時期です。行政も市議会もそれへ対応できるように改革しなくてはなりません。議長に

は、その橋渡しの役目があります。もう一つは、先輩が築いてこられた「開かれた議会」をさらに進めることが地方分権時代には特に大切です。議会の透明性や公開の原則を徹底しようと、議会運営委員会で議論を重ねています。

——住民と議会との距離を縮小し「身近な議会」をめざしているとのことですが、投票率は……。

原さん とくに、地方選挙の投票率が低下しています。私、このことを民主主義の危機と憂慮しています。広報不足とご指摘もありますが、議会広報紙やテレビ中継、各区役所のKRIVISION、川崎駅地下街「アゼリア」の議会の広報コーナー、小中学生用・外国人向け「議会のしおり」などPRに積極的に取り組んでいきます。また、インターネットで本会議の模様を見ることができ、けれど、先日の「川崎市民の意識調査」で「議会のことが分からない」という市民の方が半数でした。現在、すべての市議が「市民の方々が市議会に関心を持っていたくには、どうすべきか」を腐心しています。

——行政や地方自治についての

小中学校の教育が不十分です。これは受験と関係があります。でも原さんのお話をお聞きして、市民が「自分たちの生活、住んでいるところの問題を解決する議会」と意識を向けなくてはと思いました。

原さん 川崎市議会は、本会議も常任委員会も傍聴自由です。ぜひ大勢の方に来ていただきたい。議員は傍聴人が多いと頑張る習慣がありますから(冗談ばく)。



——市議会を傍聴した知人が、「市議の質問に市の局長が答弁書を読み上げるだけで緊張感がなかった。積極的な意見交換があれば」と言っていました。

原さん 質問の目的は二通りあります。一つは政策論争のためです。意見の相違があるので、大いに議論されるべきです。もう一つは、事実経過を確認しながら市政の考えをただしていく場合です。このときは、事前に質問内容を伝えておいて、しっかりした答弁を得ることが大事です。

——その点は理解できますが、その知人が「市長が答弁すると、質問者の市議が『市長から実りある答弁をいただき、ありがとうございます』と、深々と頭を下げるシーンがあった」と。市長と市議は、本当に対等なんだろうかと思いません。実際、市長発言にはマスコミも強く反応しますし、直接、施策として反映されずから。

原さん 地方議会は二元代表民主主義ですから、本来はもっと市議と市長の間で政策論争をして、是非非の緊張関係を持続して、われわれ市議と市長が「この川崎

市長と市議 政策論争し緊張持続を立案・調査機能の強化も課題



をこうしていく」というような雰囲気になればと思います。

——市議と市長・行政は独立して、市議会と市長は対等という認識ですが、現実には市長が議案を提案して、市議会がそれを承認する「承認議会」との感じも。

原さん 必ずしもそうではありませんよ。市議による議案は多いとは言いませんが、審議の過程でさまざまな提案や問題提起を市長・行政にして、それを予算に反映させています。国にも、重要な施策には賛否の意思表示をします。ダイオキシン問題での「意見書」もその一つです。

——行政に対し、議会が受け身のよう……。

原さん それはちょっと違うんですね。行政マン・ウーマンが川崎市には一万数千人いるのです。その職員は、市長の指揮監督を受

原修一さん

はら・しゅういち=1949年、中原区小杉陣屋町生まれ。71年、日本大学商学部卒。83年、川崎市議(自民党)に初当選、現在4期目。市議会の第4常任委員長、第5同、議会運営委同、自民党市議団副団長、同団長、同党川崎市連政調会長、同総務会長を歴任。97年6月、川崎市議会議員に選出され現在に至る。好きな言葉は「try」(努力する、試みる=編集注)。趣味は溪流釣り、読書。中原区小杉陣屋町の同じ敷地内で両親、妻、一男二女の7人暮らし。

け、市民の生活や健康を守り、向上させる事務や事業を行っています。行政と議会は、地方自治における役割分担をしているわけです。しかし「市議会がこのままでよい」と言っているのではありません。これは地方分権とも大いに関係があるのですが、議会の政策立案能力や調査機能を高めることは地方自治の本旨からも大事なことです。そのために議会事務局の陣容を高める、政党の勉強会の強化を図ることが急務だと思います。

——お話が地方分権に移っていますが、今なぜ、地方分権が

国の権限 地方へ移譲 迫られる自己決定

空き教室開放やまちづくりで

必要なのでしょうか。

原さん 長い間「地方分権は明治維新、戦後改革につぐ第三の改革」と言われてきました。中央集権主義の時代が長く続いた結果、この数年來は行き詰まった感じですね。官僚の不祥事が相次いでいるのもその表れです。言い換えれば、戦後の高度経済成長を支えた官僚システム、中央集権それ自体の見直しが迫られ、国から権限や財源を地方に委ねようということが、地方分権の最大のネライです。

——つまり、地方自治体の権限

・裁量権が増える一方、地方議会の役割や機能強化が求められている



ると。地方分権に伴うメリットとデメリット、期待と不安は。

原さん ぼくは期待の方が大きいですね。今までは国と地方は主従関係にあった。これからは国と地方が同一レベルになる。これが地方分権のもっとも大きな特徴です。それぞれの市町村の自己決定権と自己責任が否応なく増えるというところは大きな改革です。住民ニーズが発生する一番近い場所での政策決定がされるといふことの意味は予想以上に大きいはずですよ。

——具体的には……

原さん バス停留所やバス運賃を決定する場合、市営でも運輸省の認可が必要です。たとえば、バス停によって交通渋滞や事故がおきやすいので、それを改善しようと、バス停留所を三十メートル移動させるときも運輸省の許可がいるのです。

——ほーお。決定までの時間もかかるでしょうね。

寺本由美子さん



原さん それから、補助金行政の例でいえば、小学校などの空き教室の開放、有効利用があちこちで行われていますが、国の補助金で建物を建てているので、その返済が終わるまでは手が付けられないというのが現状でした。

——そうだったのですか。

原さん 地方分権で、まちづくりの視点も変わるでしょう。これからはユニークなまちづくりに変わっていくと思います。どこの駅前広場も似たり寄ったり。それは国の「こういう決まりで造らないと補助しません」という指導があるからです。

——デメリットはどうですか。

原さん 行財政改革で小さな政府をつくるという目的があります。国にならって、川崎市などの「地方公共団体もコンパクトに」とい

うことになるのは裏腹ではないかと思えます。地方分権の大きな意義は先ほどお話ししましたが「住民ニーズが発生する身近なところで市民本位の政策決定ができる」ことです。そして、市長の権限、行政の権限も増えますから、市議会も政策立案能力や行政を強力にチェックできる調査能力が要求されます。これは、メリットにもなり、デメリットにもなります。

——これを契機に、市議が市民代表であると同時に、さまざまな分野のエキスパートになる必要があると。国会議員には公費の秘書がいて、各政党の周囲にいろいろな分野の専門家がいます。これからの市議会も優れたスタッフを持つことが、大変重要になってきますね。

原さん おっしゃる通りです。

寺本由美子さん

1957年、名古屋市生まれ。80年、東海大学卒業。同年、東海テレビアナウンサー。82年、その後、結婚のため退社。その年、愛知県教員免許取得。フリーアナウンサー。今年11月の「かながわサマー大会」総合アナウンサーに就任。川崎在住。

実は市議の活動の位置付けが不明確な点があるのです。地方分権の実施前に解決しなければならぬと思っています。

——どうということですか。

原さん 市議は特別職公務員です。行動範囲は、議会の開会中と閉会中の常任委員会の審査のとき、それと県外に出張したときに限られます。それ以外は、市民の方から陳情や要請を受け、現地視察に



行っても議員としての身分保障がないのです。

——ということとは、その間に事故に遭っても、公務災害として認められないことになりますね。

原さん そうです。川崎市議会は地方分権にあたって勉強会を重ね、シンポジウムの開催など積極的に取り組んでいます。その成果を生かすためにも議員の身分を明確にする必要があると思います。

——地方分権時代には、市民・

市議・行政がパートナーシップを築くことが重要ですね。市民も応援すると思います。さて、地方分権が実現しますと、市職員が「国の方針待ち」とか「国の規制で」と言えなくなると思いますが、市職員への注文はありますか。

原さん 市町村の自主性、主体性が問われますから、今までの延長線上の学習や改革ではなく、新しい感性を持って取り組んでいた

市職員は都市間競争意識せよ

市民は行政と連帯し監視も

すよね。「終の住処」として川崎に住む市民が、行政と「連帯・協力すると同時に監視する」姿勢を維持することは地方分権の時代には不可欠ということですね。

原さん そうです。住民が積極的に行政に参加してもらいたいですね。先ほど、市議と市長、市役所の位置関係が出ましたけれど「市民も対等に加わる」でいいんじゃないでしょうか。それが開かれた市政の条件です。

——都市間競争を市職員が

強意識し、都市経営という意味においては、リーダーシップのある人材育成が急務です。住民ニーズに合った政策・事業努力をした市町村にだけ、将来の発展があると思います。川崎市が、地方分権の時代に即応した体制に持つていくかが、当面の大きな課題です。

——その時々行政が精励であったか、怠慢であったかが表出するのは、一定の年月を経てからで

川崎には市民参加・参画の仕組みは多々あります。区政推進会議、区民懇話会、地域教育会議、それに市長への手紙、シンポジウ



ム。市民の声が具体的にどれだけ

行政に反映されたか、情報公開を徹底してほしいです。たかさんの市民が「自分の意見が生かされた」と実感できることが大切ですので。

原さん 「身近な市議会」にするために、区レベルで地元選出の市議と市民のみなさんが話し合える仕組みをつくりたいと思います。

——それはいいですね。小さな単位がしっかりすると、その集合体の行政が、市民の納得する施策を行うと思いますから。

原さん 地方に権限が移ることは明確になりましたが、財源ほどの程度、任されるのかは不明確です。これまで地方分権推進委員会(諸井慶委員長)が勧告・提言をして、政府が決定するという中央主導できました。これからは「待ったなし」の段階に入ります。そういう意味では、地方の取り組みは今後が重要になります。

——実りある地方分権の実現に向け奮闘をお願いします。本日はありがとうございました。

題字は高橋清・川崎市長

構成／富樫 恭子

文責／田中 圀

カメラ／山本 綾子

はりきってます グループ紹介



食事に香りそえ

心にやすらぎを

仲間と楽しむ 学ぶ 活動する 笑顔あふれる。

草花の芳香を探求する

ハーブ(香草)は、ベランダでも鉢さえあれば手軽に育ち、暮らして役立つ草花。「ハーブの会」佐藤清忠代表(63)の二十六人は、毎月第三金曜に多摩市民館で、その草花を入れておいしい料理を作ったり、心身がリラクセスする香りを楽しんでいる。

ハーブの会(多摩区)

この日はケーキ作り。翌日、麻生区の地域作業所「があでん・らら」のハーブまつりで販売するため三グループに分かれてケーキの「競争」。

あるテーブルには、濃緑の葉をしたローズゼラニウムが鉢ごと置かれる。遠藤良子さん(55)が育てたハーブで、独特なスパイシーな香りの「バナナ入りローズゼラニウムケーキ」作りが始まる。葉を一枚一枚ていねいに摘み水洗いする西原恭子さん(36)。その隣でケーキの生地作りが進む。「もう少し、白くなめらかになるまで混ぜてね」とお菓子作りが得意な佐々木智子さん(37)が声をかける。型に流し込み、その表面に飾りとしてゼラニウムの葉を形を整えて付けて「写真」、オーブンに入れて焼く。楽しそうに焼き加減をのぞく顔には、手作りのおいしさへのこだわりがあふれる。

この後は、二カ月前に種植えした苗の交換会。ハーブの種類と知識を増すコーナーでもある。

「香りを楽しむならベニロイヤルミント。食用には適しません」と北村文男さん(70)が解説。村上浩子さん(50)は「マスター

ドの葉は、サンドイッチに挟むとピリツとしておいしい」とPR。かれんな花を咲かせるハーブの香りは癒しの効用もあり、生活に潤いをもたらす草花として注目されている。

同会は平成七年、同館主催の成人学校「暮らしを彩るハーブ」の受講生有志で発足。植物は探求を深めると「バジルはトマトと一緒に植えると虫が付きにくくなる」コンパニオンプランツ法といった魅力の世界がたくさんあるという。代表の佐藤さんは「種から育て、どのように利用するかも楽しみの一つです」と話す。

ハーブ歴十年の遠藤さんは「食卓のハーブの香りは家庭の幸せの香りです」と笑顔。

自然志向の金子久美子さん(40)は「たくましい植物なんです。愛情をかけても過保護はダメなの」と話す。

小川雅子さん(65)は「育てたハーブを押し花にして、プレゼントしたら喜ばれました」と話す。

連絡は☎(977)7102の 芦田多恵子さん(FAXなし)。

文/小誌・井上徳子
カメラ/小誌・菅原純子

はりきってます グループ紹介

身障者の着やすい服を作る

ボランティアサークル系の詩(多摩区)

体の不自由な人や病気療養中の人のために、着やすい服づくりをしているのは「ボランティアサークル系の詩」 栗田佐穂子代表(52)ら十九人。第一金曜の午後、

かたわらでは同学院の副院長でもある栗田代表が、見学に訪れた稲城市のボランティアグループに作品を披露し写真。「フォーマル

手直ししたことがきっかけとなり、

今年三月、初の作品展を多摩市民館で開いたところ、多くの市民から問い合わせがあった。秋には作り方を書いた作品集が出されるという。

登録ドレスメーカー学院に集まり、既製服に手を加え、着脱しやすく着る人の心が和むようおしゃれ心も添えた衣服の研究をしている。

この日は、車いすを利用する人のズボンのリフォーム。車いすに座った時、ズボンがどういう状態になるかを実際に試した上で改良点を確認し、数人のグループに分かれて作業を始めた。

「股上が浅いから後ろズボンに布を足したら」「両わきにファスナーを付けたら？」と作図したノートに額を寄せ、活発に意見を交換する。メンバーたちは、ウエスト部分をほどく、裾を裁った布にアイロンをかける、マネキンにズボンをはかせ仮縫いするなどテキパキ動く。

おしゃれ心添えて
リフォームに工夫



にもカジユアルにも着られるようリバーシブル(両面仕立て)にし、前は片手で止められるようマジックテープを使いました」と工夫を話す。「なるほど、これなら楽に着られそう」ととてもすてきね」と思わずうなずき合う見学者たち。

同学院の卒業生や研究生に呼び掛け発足した。手持ちの材料で作った衣服は、障害者や高齢者に使ってもらい感想を聞き、病状に合わせて改良している。

八重樫光さん(47)は「自分のアイデアで作った服が患者さんに喜ばれたときはとてもうれしかった。アイデアを出し合うのが楽しいですね」と笑顔。

木島とし子さん(55)は「洋裁の技術が少しでも何かの役に立てばと思い入りました」。

寺門みをさん(44)は「自分たちは工夫したつもりでも、着る人や介護する人には『いま一つ』だったこともあり。意見をどんどん取り入れて行きたい」。

栗田代表は「特別な技術がなくとも大丈夫、どなたでも気軽に参加して下さい」と呼び掛ける。

連絡は ☎(911) 2221 FAX(933) 0775の同代表。

文 / 小誌・菅原純子
カメラ / 小誌・山本綾子

仲間と楽しむ

学び

活動する

作る・作る

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演



市外局番のないものは044

学習・文化情報

①油彩画の人物を描く

② Art for Moms Artおかあさんのための造形教室③植物染料で染める④初級システムアド

ミニストレータ試験直前演習講座⑤インターネットを使いこなす⑥TOEFLの英語◆玉川大学 ①は9月

19日からの出、全10回②は9月16日からの出、全5回③は9月19日からの出、全12回④は9月19日からの出、全3回。⑤は9月25日からの出、全8回⑥は9月28日からの出、全10回。受講料は1万5千〜7万5千円。

定員10〜25人。問い合わせ申し込みは☎0427(39) 8895の同大継続学習センター。玉川学園前駅下車。

「朗読、録音ボランティア講習会◆市福祉センター」9月22日からの(火)18時半、全6回。教材費千円。40人

(抽選)。申し込みは9月7日(月)までにはがきに講習会名、住所、氏名、☎を記して210100024川崎区日進町5の1、同センター内・市盲人図書館。☎(211) 3187。

①ワープロ基礎コース②中高年齢者向けパソコン講座③Windows 98入門講座④パソコン基礎コースI⑤表計算(Excel)応用講座⑥データベースソフト初級講座⑦パソコン基礎コースII⑧Windows 95活用講座⑨写真加工

チャレンジ教室◆市産業振興会館 ①は9月16日(水)17日(木)②は9月7日(月)9日(水)11日(金)③は9月18日(金)29日(火)④は9月10日からの(木)、全3回⑤は9月18日(金)⑥は9月22、29日の(火)⑦は9月10日からの(月)(木)、全6回⑧は9月25日(金)⑨は9月17日(木)。受講料1万〜2万7千円。各先着8人。問い合わせ申し込みは☎(548) 4119の産業振興財団情

報開発課。

「入門点字講習会◆市南部身体障害者福祉会館」9月22日からの(火)18時半、全6回。点字器代のみ1350円。20人(抽選)。申し込みは9月11日(金)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎を記して210100834川崎区大島1の8の6、同館。☎(244) 3971。

「日本住宅の歴史◆日本民家園」9月19日、10月3、10日(出)13時半。3千円。40人(抽選)。問い合わせ申し込みは9月7日(月)までに往復はがきに講座名、住所、氏名、☎を記して21410032多摩区枳形7の1の1、同園。☎(922) 2181。

「秋講座」子供と絵本◆ゆりがおか児童図書館 10月6日(火)から4回にわたり織茂恭子さんが講義。千5百円。先着50人。問い合わせ申し込みは9月7日(月)から(水)13〜17時に来館。☎(954) 1740。新百合ヶ丘駅からバス。

「ビジネスマンのための知的財産権講座◆県立川崎図書館」10月22日からの(木)13時半、全4回。教材費5千円。先着80人。問い合わせ申し込みは9月30日(水)までに往復はがきに住所、氏名、職業、☎を記して21010011川崎区富士見2の1の4、同館。☎(233) 4537。

「カラー美術魚拓教室◆川崎市民プラザ」9月26日からの(出)13時半、全5回。初・中級者向き。費用1万円。先着20人。9月20日(日)までに費用を添えて来館。☎(888) 3131。

「俳句入門②初めてのツールベインティング◆登戸ドレスメーカー学院」①は9月19日(出)13時②は9月25日(金)10時。装飾、リフォームを楽しむ。材料費8百円。受講料は各千円。先着各15人。申し込みは午前中に☎(911) 2221の

同院。向ヶ丘遊園駅下車。「秋から初冬の親子自然教室◆黒川青少年野外活動センター」9月27日からの(土)、5回。小学生と保護者。教材費1人3千円。親子20組40人(抽選)。申し込みは9月8日(火)までに往復はがきに教室名、住所、氏名、学校名・学年、☎を記して21510035麻生区黒川313の9、同館。☎(986) 2511。

「乳幼児学級◆岡上分館」9月29日からの(火)10時、全10回。3歳児と保護者。無料。定員20組。申し込みは9月1日(火)10時から☎(988) 0268の同館。

「絵画②版画③クリスマスケーキづくり④クレイアート⑤水墨画⑥はた織り」◆市青少年創作センター ①は10月10日(祝)11、18日(日)24日(土)②は11月28日(土)と29日からの(日)の4回③は12月23日(祝)④は11月5日からの(木)、全4回⑤は10月9日からの(金)、全4回⑥は10月6

の(木)、全4回⑥は10月6

学習・文化情報

参加したい催しがある

日からの(火)、全3回。時間は①②13時半、他は9時半。①②③は小中学生、他は成人。受講料④⑤2千円⑥千円、他は無料。材料費は5百〜3千円。定員は10〜30人(抽選)。申し込みは9月22日(火)までに往復はがきに教室名、住所、氏名、性別、学校名・学年を記し〒214-0003 多摩区三田2の3303の1、同館。☎(911)1510。

「グレイドアップ・フォトグラフィ」上級写真講座◆市市民ミュージアム10月10日からの(出)13時、全8回。白黒写真の暗室技術を習得の人。1万2千円。印刷紙・フィルム代は自己負担。16人(抽選)。申し込みは9月15日(祝)までに往復はがきに住所、氏名、返信部分にあて名を記し〒211-0005 2中原区等々力1の2、同館・同講座係。☎(754)4500。

「女性セミナー①自分を好きになるための自己表現トレーニング②パネルディスカッション」女性への暴力を考える◆市中小企業・

婦人会館」①は10月1日からの(木)14時、全4回。40人(抽選)②は11月1日(日)13時半。パネリストは平川和子さん他。先着百人。無料。2歳以上の保育あり。申し込みは①9月25日(金)までに往復はがきにセミナー名、住所、氏名、☎を記し〒211-0004 中原区新丸子東3の473の2②9月16日(水)8時半から☎(422)2525の同館。

「10月からの講座◆市中小企業・婦人会館」芸術、スポーツ、語学他の81講座の受講生募集。受講料は1万円2千〜6千5百円、入会金3千円。2歳以上の有料保育あり。申し込みは☎(422)2225の同館。

「初心者向け古文書講座」古文書から見る川崎の歴史◆市公文書館10月24日からの(出)13時半、全3回。教材費千円。30人(抽選)。申し込みは10月2日(金)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、職業、☎を記し〒211-0005 1中原区宮内4の1の1、同館・同講座係。☎(733)3993。

「講演」インド山岳民族と共に生きる◆市国際交流センター」9月15日(祝)14時。インド山岳民族の女性、子供の差別と援助活動について、ハンセン病患者救済団体「インドNGOニューホープ」の創設者で現ディレクターのローズさんが話す。無料。先着260人。申し込みは☎(435)7000の市国際交流協会。

「①わくわく実験教室②親子パソコン教室③やさしい先端技術講座◆東芝科学館」①は9月12日(土)10時〜13時。テーマは「つめたい、つめたい話」②は9月26日(出)9時半③は9月26日(出)13時半。テーマは「21世紀を拓く半導体技術」。いずれも無料。定員は②20組40人、他は各250人。申し込みは☎(549)2200の同館。川崎駅からバス。

「公開講座①21世紀のくらしと経済②実用英語の学び方◆大妻女子大学多摩校」①は10月17日からの(出)、全5回。百人②は10月15日からの(休)、全5回。50人。いずれも10時。受講料各3千

円。申し込みは10月3日(土)までに往復はがきに社会情報学部公開講座、氏名、性別、年齢、住所、☎、勤務先と返信部分にあて名を記し〒206-1854 0多摩市唐木田2の7の1、同大学事務部公開講座係。☎042(372)9988。唐木田駅下車。

「かしこい消費者講座」家庭から見直す環境問題◆市中小企業・婦人会館」9月28日(月)14時。講師は松田美夜子・生活環境評論家。無料。先着80人。申し込みは9月16日(水)9時から☎(200)2262の市消費者行政センター。

催し



「①園内古民家解説ツアー②職員によるトーク」納戸の神③草木染め④こども体験教室◆日本民家園」①は9月5日(土)10月3日(土)②は9月13日(日)。①②とも13時半、原家に直接集合。無料。入園料必要③は9月27日(日)10時、原家。スカーフを染める。30人。受講料千

TOEIC(初・中級)対策セミナー 受講者募集

- 期 間——初・中級とも10月24日〜来年2月27日の土曜、全15回
- 会 場——市生涯学習振興事業団(小田急線新百合ヶ丘駅下車)
- 時間/定員——初級は10時半〜12時半、中級は13時半〜15時半/各25人(抽選)
- 受 講 料——初・中級とも20,000円。教材費は、初級は7,000円、中級は5,000円

★申し込みは、9月17日(木)18日(金)10〜17時に☎(952)5000の当事業団

学習・文化情報

ききたい音楽がある

円④は9月26日(土)10時、作家。わらでつるとかめを作る。小く高校生。先着10人。無料。入園料不要。申し込みは③が9月14日(月)必着で往復はがきに住所、氏名、☎、講座名を記して214-10032多摩区枳形7の1の1の同園④は9月1日(火)から☎(922)2181。

①星を見るタベ②天体写真撮影会③生田緑地ミニ観察会◆市青少年科学館①は9月12日(土)26日(土)18時。月、二重星を。雨、曇りはプラネタリウム②は10月25日(日)17時。月齢5日の月を。雨、曇り中止。小学5年以上小学生は要保護者。先着14人。持参品あり③は9月6日(日)植物マ13日(日)昆虫マ20日(日)キノコを。10時に同科学館集合。持参品あり。小雨決行。いずれも無料。

申し込みは①③は当日直接②9月29日(火)9時から☎(922)4731の同館。

「神奈川こども人形劇脚本コンクール作品集」資格は県内在住在勤者。題材は県内の昔話・伝説。県立

青少年センター児童文化課内・同コンクール事務局で要項配布。☎045(241)3331内線3212。

「市民天体観望会」中秋の名月とお月見団子◆川崎授産学園10月3日(土)19時、月・秋の星座を。雨天は集会。無料。当日直接。小学生以下は要保護者。☎(954)5011。

「シネマクラブ」川崎マリエン」9月27日(日)14時。米映画「マウス・ハント」。無料。当日先着3百人。問

ステージ

「コーギーコンサート◆糺ホール」9月27日(日)14時開演。南智子(ソプラノ)森文彦(バリトン) 星晶子(ピアノ)。無料。☎(812)6090。

「すみや洋子コンサート」ピアノ弾き語り◆糺ホール10月5日(月)14時開演。「道」「ダンサー・ボーイ」他11写真下。全自由席2千円。問い合わせは☎(812)6090の同ホール。

い合わせは☎(287)6009の川崎港振興協会。

「シネマテーク」自由という地平◆市民ミュージアム」撮影監督・宮島義勇の作品を上映。9月5日(土)①足摺岬②愛すればこそ③6日(日)①異母兄弟②千里馬③12日(土)①若者たち②檻樓の旗③13日(日)①雪舟、西陣。時間は①が13時半②が16時③13日(日)14時半、シンポジウム「宮島義勇 人と思想」あり。パネラーは伊藤武郎。能登節雄。料金は一般5百



「敬老記念コンサート◆川崎市民プラザ」9月10日(木)14時開演。出演は胡美芳。「夜来香」他。無料。当日先着5百人。問い合わせは

円、小中生3百円。シンポジウムは無料。先着250人。☎(754)4500。

「しんゆり映画祭」バリアフリーシアター◆新百合21ホール」10月8日(木)「HANA-ABI」▽9日(金)「ラヂオの時間」。視覚障害者のための副音声イヤホンガイド有。いずれも午後上映。車いすで観賞可。問い合わせは☎(951)2511同祭事務局(10月7日)〜11日(日)の同祭詳細は小誌10月号で掲載します。

☎(888)3131。

①三遊亭円歌独演会②泉谷しげるのソロ・コンサート◆川崎市民プラザ①は9月26日(土)18時開演。大人2千円。子供5百円②は10月3日(土)18時開演。3千円。いずれも5百人。☎(888)3131。

①津軽三味線②人形浄瑠璃◆日本民家園①は9月23日(祝)11時と13時半。工藤家で木田林松藤らが演奏②は9月27日(日)13時、工藤家で下中座の「傾城阿波の鳴門」。各2百円・要入園

世界的チェンバリスト ふるさと川崎で初演

曾根麻矢子おしゃべりコンサート

9月26日(土)午後3時開演 川崎能楽堂 (川崎駅下車)

全自由席 3,500円

〈曲目〉バッハ「チェンバロ・コンチェルト 第3楽章」スカルラッティ「ファンダンゴ」他

●問い合わせは☎(222)8821の市文化財団

○川崎市共催○市教委後援

好評
前売り中

学習・文化情報

みたい絵がある



「中村正義の美術館」9月2日(水)から「中村正義と水画展」▽9月28日(月)から柳沢春美「鳥の写真展」。

ギャラリー



「スナック喫茶」9月26日(土)まで、吉田初子「墨水画展」▽9月28日(月)から柳沢春美「鳥の写真展」。

「市民ミュージアム」9月27日(日)まで「少女まんがの世界展」女性作家8人のまなざしと表現」。池田理代子、美内すずえ他の原画▽10月11日(日)まで、出版資料に見る少女まんが展。一般700円、小く大生300円。

「会館とどろき」9月13日(日)まで、遠藤英夫「花と旅」写真展▽9月14日(月)〜

「市民ミュージアム」9月27日(日)まで「少女まんがの世界展」女性作家8人のまなざしと表現」。池田理代子、美内すずえ他の原画▽10月11日(日)まで、出版資料に見る少女まんが展。一般700円、小く大生300円。



「戦台風」他。全自由席3千円。申し込みは9月3日(木)から☎(2222) 8821の市文化財団。

「ギャラリー幸」9月11日(金)〜16日(水)、女性美を描

「アートホール新町」9月1日(火)〜30日(水)、かわさき市民アカデミー芸術・美術コース会員の絵画マリバーカレント会員の陶芸、七宝焼。☎(344) 6444。

「画廊ランプ屋」9月3日(木)から、ランプ屋コレクション。絵画、版画他。☎(945) 4416。

「戦台風」他。全自由席3千円。申し込みは9月3日(木)から☎(2222) 8821の市文化財団。

「剣道」②少林寺拳法③なぎなた④合気道⑤柔道⑥気功太極拳◆石川記念武道館」①は9月22日からの(火)17時、全16回②は9月24

「ジャズダンス教室」健康づくり体操◆高津スポーツセンター」①は10月7日からの(火)18時半、全10回②は10月13日からの(火)14時、全10回。いずれも15歳以上40人。4千円。申し込みは①9月30日(水)18時半②10月6日(火)14時に同館で抽選。

「体育の日」エアロビクスマラソン②はつらつ健康体操◆幸スポーツセンター」①は10月3日(土)10時。中学生以上。先着120人。無料②は9月17日からの(木)13時半、全10回。60歳以上40人。千200円。申し込みは①9月22日(火)10時に来館②9月10日(木)14時同館で抽選。☎(555) 3011。

「戦台風」他。全自由席3千円。申し込みは9月3日(木)から☎(2222) 8821の市文化財団。

スポーツ

村 楯 広 義 展

日 時 9月7日(月)〜19日(土) AM10時〜PM5時
場 所 岐阜県東京事務所 10F スペース (地下鉄六本木駅)
問い合わせ ☎ 03(5771)5221の同事務所

「いまを話す」のゲスト、村楯広義さんの個展です。青春時代の夢を実現させた村楯さんの油彩をお楽しみください。「岐阜県 高山祭」(30号)など大作6点を展示します。

学習・文化情報

入会したいグループがある

日からの(木)18時、全8回③は9月26日からの(土)15時、全8回④は9月26日からの(土)16時半、全8回⑤は9月22日からの(火)18時、全8回⑥は9月30日からの(水)10時、全10回。対象は①～⑤小学生以上⑥が15歳以上。定員は20～40人。受講料①～⑤大人1回百円、子供50円⑥4千円。申し込みは①～⑤9月13日(日)10時⑥9月22日(火)13時半、同館で抽選。☎(544)0493。

〔親子スポーツ教室◆麻生スポーツセンター〕9月19日からの(土)10時、全10回。平成6・7年生まれの子とその父母30組。3千円・教材費650円。申し込みは9月12日(土)10時、同館で抽選。☎(951)1234。

〔①ヨガ教室②真向法◆武蔵小杉駅周辺〕①は第2・4月②は第2・4月10時。会場は①小杉こども文化センター②中丸子老人いこいの家。いずれも入会金千円、月会費千五百円。申し込みは☎・FAX(411)7773の市民フロント・事務局(水)(土)を除く。

会員募集

「テニス入門教室◆サンライフ川崎」10月17日からの(水)14時、全8回。受講料約3千円。先着40人。申し込みは9月1日(火)から☎(344)1777の同所。

●麻生合唱団《上野浩代表》社会人から学生の幅広い仲間と楽しく歌っています。12月23日麻生文化センターで開く神奈川フィルの特別演奏会に出演します。

読者の声

「グループ紹介」は生きた記事と感じた多摩区西生田

福島裕子さん

以前、「はりきってますグループ紹介」で「パステル画研究会」の取材していただきましたが、「いまを話す」も毎号、楽しみに拝見しています。最近、「パステル画研究会」に入られた方に、掲載号をお見せしましたところ、とても感激

ヘンデル「メサイア」を一緒に歌いませんか。練習は毎週土曜18時から、青葉幼稚園(新百合ヶ丘駅下車)。入会金千円。月会費一般3千円、学生2千円。連絡は☎・FAX(986)9144の同団事務局・鈴木。

訂正とおわび 6月号14ページの会員募集欄「みのり会」の連絡先電話番号を「☎(755)8654」に訂正します。

され「いろいろな描き方があっていいのだと分かって肩の力が抜けました」とおっしゃいました。ていねいな取材の生きた記事だったと思えました。私は今年、「てくのぼこ」という子育てグループの代表をしています。また、取材をかねて遊びに来て下さい。

ミニニュース

ミスター偏差値が小誌スタッフに?

文部省生涯学習振興課長

の寺脇研さんから「ステージ・アップ」編集チームの菅原純子あてへこのほど小包が届いた。その中には私信と一緒に「21世紀へ教育は変わる」(近代文芸社)「なぜ学校に行かせるの?」(日本経済新聞社)寺脇さんの著書が入っていた。

寺脇さんは、かつて「中学の業者テスト廃止」「偏差値教育追放」に取り組み、「ミスター偏差値」とよばれ、最近では大胆な教育改革の提言をしている。

寺脇さんが課長に就任したのを機に小誌を実名で郵送。6月号の「編集後記」で著書の一部を引用させていただいた。

「21世紀へ教育は変わる」(近代文芸社)の中で「これからの教育改革が目指すものは、楽しく学ぶと言う事だ。そのためにはなぜこれを学ぶのかを徹底させることが大切」とし「今の子供の問題を解く鍵は生涯学習にある」「大人が何か新しい活動を始めることによって子供達と積極的にかわり話を」「大人自身が生

涯学習をして自ら楽しんでいないと子供達は心を開かない」と述べ、だれもが教える人と教わる人になるのが生涯学習社会と記す。

心ない人間の犠牲に

野生動物のかけ込み寺 中原区の「野生動物ボランティアセンター」は釣り針を飲んだ水鳥や交通事故で傷ついたタヌキなど野生動物のリハビリセンター。くちばしのない鳩を見て、「どうして」と聞く子供に、ボランティアの東京都荒川区、堀まり子さんが「猫とけんかしたのかな。もう自分でごはんが食べられないの」と話す。見字OK。同センター(☎77718243)は、獣医師の馬場国敏さんが自費で今年4月、開設した(一)。

高校でエスペラント語担当教師は川崎の会員

今春、神奈川県立新羽高の選択授業に「国際語エスペラント語」(百年前に創案、使用者約百万人)が全国で初めて取り入れられた。担当するのは、同校の英語教師で川崎エスペラント会

会員の北川郁子さん。

夏休みまでに36人が基礎を習得。生きたことばを味わうため文通を始める生徒もいる。北川さんは「生徒には世界への夢があります。でも語学の進歩は個人差があり、満点の子、合格点ギリギリの子がいて、個別に課外で対応していきたい」と話す(一)。

**愛と楽しさいっぱい
川崎オペラの基本です**

「川崎市民オペラゴールデンコンサート」が6月12日多摩市民館であり「愛はオペラのきほんです」をテーマに、永遠の愛を歌った名曲アリア、重唱、合唱を披露した。その半数が日本語での上演。モーツァルトの「魔笛」では、ザラスト口役の佐藤征一郎さん(バス)がステージ中央に厳然と立ち、僧侶にふんしたアマチュア団員の川崎市民オペラ合唱団が合唱。また、辻秀幸さん(テノール)がユーモラスに解説。次回の演奏会は、10月30日(金)18時半から、多摩市民館でおこなう(Y)。

“地方一揆”の勧め

編集後記

世界一おとなしい日本国民が消費税以来の怒りを爆発させた▼参議院選で、自民・社民・さきがけの“政権トリオ”がまさかの歴史的惨敗▼勝ち組は民主・共産・自由の三党だが、国民が消去法で投票したに過ぎないとの見方もある▼その後の自民党総裁選での対応は、国民の投票行動に驚くほど鈍感で倫理の欠如を世界に示す結果になった▼社民党もひどく、定数の5%政党に転落したのに責任論も出ない無気力さ▼消費税を5%に上げ、平成不況の要因を作ったのは社民党政権であり因縁を感じる▼いずれにせよ、平成不況を口実にした超低金利と医療費の引き上げなどによって、高齢者の生活が著しく脅かされている事実は消えていないことを国民は忘れていない▼九月十五日は「敬老の日」▼八十六歳の私の母は痴呆症で、今

年一月から特別養護老人ホームに入所している▼毎週訪れているが、日によって状況が大きく異なる▼息子の私に分からない日もあれば、「うちに帰れるの」と私にすぎるときもある▼どちらのときも、悲しくむなししい▼というのは、一緒に帰宅しても夜になると母は「息子に迎えにくるよう」に電話をしてください。住所は赤坂新町四丁目と頭を下げる▼赤坂新町で母は娘時代を過ごした▼それ以下、のほろが赤ちゃん同様の状態だが「いくつになっても女は女」で、下の面倒を見ようとする男の私を拒絶する▼その母にも「輝いているとき」はあった▼「声の小さい社会的弱者を足蹴にし、土建屋と金融機関に何十兆円もお金を支出」と野党▼川崎市会原修一議長は「市民ニーズが発生する近くで政策決定する地方分権の意義は大きい」▼国政が市民ニーズを無視するのなら与野党で“地方一揆”を起こしてほしい▼春の統一地方選前に(田)。

退職準備講座の受講者募集

どうなる退職後の生活

	日時	テーマ	会場
1	11月12日(木) 13~17時	退職金と税金、退職後の生活設計、 社会保険	市中小企業・婦人会館 (武蔵小杉駅下車)
2	11月26日(木) 13時半~16時50分	経済動向と生きがい、 これからの健康(実技あり)	県川崎労働センター (武蔵小杉駅下車)

◇講師は、岸本重陳・横浜国大教授ほか専門家

●受講料/定員——2,000円。1回のみ受講は1,000円/各回先着70人

●申し込みは、9月8日(火)~30日(水)までに ☎(422)3932の当事業団学習事業室

9月11日から 楽しく多彩なイベント

かわさき市民アカデミー学園祭

かわさき市民アカデミーの会員やOBが企画・運営する学園祭が行われます。作品展示や公開講演会などの企画で市民のみならずのおいでをお待ちしております。お気軽にご参加ください。

月 日	時 間	企 画 (演 題)	講 師 ほ か
9月11日(金)	14:00	講演「日本のモーツァルト・世界のモーツァルト」	海老澤敏・国立音大学園長
12日(土)	10:00	パネルディスカッション「介護保険制度の導入」	柳勝洋・市社協地域推進課長他
	13:00	講演「文化人類学から見た生活」	和崎春日・日本女子大教授
13日(日)	9:00	朗読会「小宇宙を表現する」	97ことばと映像コース会員
	9:30	フリーマーケット	かわさき市民フロンティア
	9:30	ハーブで香り袋をつくる	97みどり学コース会員
	12:30	講演「バリアフリー住宅ってなあに？」	桑原三喜雄・一級建築士
	14:00	講演・展示「痴呆老人のための優しい住まいとは」	大橋美幸・理学療法士
14日(月)	10:00	講演「人間の心をめぐって」	河合洋・かわいクリニック院長
	13:00	講演「ランプ・コロケ・応接間」	原田勝正・和光大教授
15日(祝)	13:00	講演「地球市民社会への展望」	遠藤誠治・法政大助教授
	13:00	高齢者疑似体験「うらしま太郎」	97高齢者福祉コース会員
	14:00	講演と演奏「日本音楽の楽しみ」	竹内道敬・放送大客員教授他
11日～15日	10:00	展示 私達が考える「防災まちづくりマップ」	川崎学Ⅲ受講生
	10:00	展示 かわさき市民フロンティアの紹介と活動	かわさき市民フロンティア
12日～15日	10:00	展示 会員の美術作品(絵画・写真)	98美術コース会員

●会 場 新百合21ビル。ただし「フリーマーケット」と「ハーブで香り袋をつくる」は麻生区役所前広場、「日本音楽の楽しみ」は麻生市民館大会議室

●参 加 費 全企画無料。高齢者疑似体験「うらしま太郎」は参加費150円必要

●申 込 み 講演「日本のモーツァルト…」のみ事前に電話で予約、他は当日おいで下さい(先着順)

◆問い合わせ・申し込みは ☎(422)3932のかわさき市民アカデミー事務局へ

●発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団
電話044(952)5000代

FAX 215-0004
044(952)1350
編 集 人 ・ 田 中 園 二 郎